

## 第1回 市立幼稚園の今後のあり方懇談会

令和7年6月9日（月）午前10時～  
市役所西庁舎12階 12A会議室

1 開会・あいさつ

2 出席者紹介

3 座長選出

4 懇談

(1) 「基本方針」及び「実施計画」について【資料1】

(2) 社会状況等の変化について【資料2】

(3) 「実施計画」の実施状況等について【資料3】

(4) 課題認識や期待すること【資料4】

(5) 参考資料

5 その他

第2回懇談会【開催通知添付】

日時：令和7年7月16日（水）午前10時から正午頃まで

場所：市役所 東庁舎5階 大会議室



## 市立幼稚園の今後のあり方懇談会について（概要）

### 1 趣旨

教育委員会では、幼児人口の減少や社会の変化、保護者の多様な保育ニーズに対応するため、市立幼稚園の役割や機能について再検討を行い、市立幼稚園の規模、配置、運営のあり方などを中長期的な視点から見直すため、平成28年8月に「名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する基本方針」を、またこの基本方針に基づき、翌年の8月に「名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する実施計画」を策定しました。

この実施計画の計画期間が令和8年度までのため、次期実施計画の策定に向けた検討を進めていくにあたり、学識経験者や幼稚園・保育所関係者の皆さまから幅広くご意見をお聴きするものです。

### 2 構成員

氏名	役職
相澤 京子	名古屋市立保育園長会 会長
伊藤 知穂美	名古屋市立幼稚園長会 会長
上田 敏丈	名古屋市立大学大学院人間文化研究科 教授
河村 暁	名古屋市私立幼稚園協会 会長
笹口 真	名古屋市立なごや小学校長
高木 良昌	名古屋市立幼稚園PTA協議会 会長
津金 美智子	名古屋学芸大学ヒューマンケア学部子どもケア学科 教授
恒川 和久	名古屋大学大学院工学研究科 教授
藤岡 省吾	名古屋私立保育連盟
水野 めぐみ	名古屋市立幼稚園教職員組合 執行委員長
(6月に確定予定)	名古屋市私立幼稚園PTA連合協議会

(敬称略、50音順)

### 3 開催スケジュール（予定）（令和7年度：全5回）

回	時期	内容
第1回	6月9日	・現計画の実施状況や課題の説明 ・意見聴取・懇談
第2回	7月16日	・これまでの施策に係る課題への対応・方向性等の説明 ・意見聴取・懇談
第3回	11月	・第2次実施計画（素案）の提示 ・意見聴取・懇談
第4回	12月	・再編の基本的な考え方 ・意見聴取・懇談
第5回	1月	・第2次実施計画（案）の提示 ・意見聴取・懇談

## 市立幼稚園の今後のあり方懇談会開催基準

平成27年 3月13日  
教 育 長 決 裁

(趣旨)

第1条 この基準は、市立幼稚園の今後のあり方の検討に活用するため、学識経験者や幼稚園・保育所関係者等から幅広く意見を聴取する市立幼稚園の今後のあり方懇談会（以下「懇談会」という。）の開催に関し、必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 懇談会は、次に掲げる者のうちから教育委員会が指名する者により構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 幼稚園・保育所関係者
- (3) その他教育委員会が必要と認める者

(座長)

第3条 懇談会の座長は、構成員の互選により決定する。

2 座長は、懇談会の議事を進行する。

(会議の開催)

第4条 懇談会は、必要の都度教育委員会が開催する。

(謝金)

第5条 構成員（市職員を除く。）への謝金は、日額12,600円とする。

(庶務)

第6条 懇談会の庶務は、教育委員会事務局総務部教育環境整備課において行う。

(委任)

第7条 この基準に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、教育委員会事務局総務部長が定める。

附 則

この基準は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成28年10月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和4年8月22日から施行する。

附 則

この基準は、令和5年4月1日から施行する。



「名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する基本方針」(H28)

市立幼稚園の役割

- これからの市立幼稚園は、私立幼稚園や保育所等と相互に連携・協調しながら、本市全体の幼児教育の充実を図る

市立幼稚園の今後のあり方

ア 質の高い幼児期の教育の実践及び発信

- ⇒ 市立幼稚園は、本市の幼児教育のモデルとなる教育実践を発信し、本市の幼児教育の質の向上に資する

イ 幼保小接続の取り組みの推進

- ⇒ 市立幼稚園は、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続のあり方を実践研究し、そこから得られた成果を私立幼稚園や保育所等に広げていく先導的な役割を担う

ウ 幼児期における特別支援教育の充実

- ⇒ 市立幼稚園は、障がいのある子どもや特別な配慮を要する子ども一人一人の教育的ニーズや発達の課題を把握し、適切な体制のもと指導や支援を充実させることにより、インクルーシブ教育の実践研究を行う

エ 家庭や地域コミュニティと連携した園運営の推進

- ⇒ 市立幼稚園は、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、交流の場や機会を提供したりするなど、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を果たす

オ 多様な保護者ニーズへの対応

- ⇒ 保護者のニーズに対応するため、預かり保育の拡充や認定こども園への移行等についても検討する

「幼児教育センター」の開設

- 本市の幼児教育の質の向上に資する研究、研修の拠点として、「幼児教育センター」(注：現在の「幼児教育支援室」)を開設
- 主な機能として、「調査・研究」「研修」「子育て支援」を想定
- 市立幼稚園各園の実践研究を全体総括し、その成果を広く発信

市立幼稚園の再編

- 幼児人口の減少への対応や機能強化に必要な財源を創出する必要があることから、市立幼稚園の再編を実施

「名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する実施計画」(H29)

「実施計画」の策定趣旨

- 「基本方針」に基づき、市立幼稚園が本市の幼児教育を取り巻く現状や課題に対応し、本市全体の幼児教育の充実を図っていくための取り組みを着実に推進するとともに、園の再編を行うことを目指して策定

「実施計画」の取り組み

- 「基本方針」に掲げた今後の市立幼稚園のあり方を実現するため、以下の取り組みを実施

取り組み① (P.9・10)

- 子ども・子育てや幼児教育を取り巻く今日的な課題に対応

取り組み② (P.11～13)

- 本市全体の幼児教育の振興を図るための拠点施設として「幼児教育センター」を設置し、その事業を通して私立幼稚園や保育所等との連携を図る

取り組み③ (P.14)

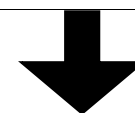
- 園児に快適な教育環境を整えるために必要に応じて施設や設備の改修

取り組み④ (P.16・17)

- 幼児人口の状況や保護者の幼稚園・保育ニーズなどを踏まえて、市立幼稚園の再編を実施(再編対象園：報徳幼稚園・はとり幼稚園・比良西幼稚園)

(現行) 計画期間

平成29年度から令和8年度までの10年間



「実施計画」の実施状況の検証・評価を行うとともに、「実施計画」策定以降の社会状況の変化などを踏まえ、有識者からご意見をお聞きし、次期計画を策定する。

(次期) 計画期間

令和9年度から令和18年度までの10年間(予定)

## 4 (2) 社会状況等の変化について

## I 市立幼稚園を取り巻く状況

## 1 本市の幼児人口及び幼稚園・保育所等利用児童数

→幼児人口減少の一方で、保育ニーズの高まり

区分	H27 (A)	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (B)	R7	比較 (B-A)
幼児人口(0～5歳児)(a)	116,795	117,083	116,380	115,905	114,533	112,758	109,929	106,927	103,425	99,856	96,189	△16,939
幼稚園・保育所等利用児童数(b)	71,506	72,785	73,744	74,230	74,823	74,931	74,334	72,904	70,761	69,410	(調査中)	△2,096
利用率(b/a)	61.2%	62.2%	63.4%	64.0%	65.3%	66.5%	67.6%	68.2%	68.4%	69.5%	-	-

## 2 市立幼稚園の園数・園児数・園児定員・定員充足率

→幼児教育・保育の無償化開始以降の園児数の急減

区分	H27 (A)	H28	H29	H30	R1	無 償 化 開 始	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (B)	比較 (B-A)
園数	23	23	23	23	23		23	23	21	20	20	20	△3
園児数(a)	2,156	2,106	2,097	2,039	1,981		1,760	1,546	1,373	1,323	1,210	1,156	△1,000
園児定員(b)	2,725	2,725	2,720	2,690	2,690		2,640	2,555	2,330	2,225	2,225	2,225	△500
定員充足率(a/b)	79.1%	77.3%	77.1%	75.8%	73.6%		66.7%	60.5%	58.9%	59.5%	54.4%	52.0%	△27.1%

## 3 施設数

→幼稚園は減少する一方で、保育所や認定こども園が急増

区分	幼稚園		保育所		認定こども園		育 事 業 ※	家 庭 的 保 育	育 小 規 模 ※	事 業 所 内 保 育 ※
	公 立	私 立	公 立	民 間	公 立	私 立				
H27(A)	23	152	115	253	0	29	24	85	1	
H28	23	149	111	266	0	40	22	102	3	
H29	23	147	108	271	0	56	21	129	3	
H30	23	143	103	285	0	70	20	146	4	
R1	23	137	101	298	0	85	20	159	6	
R2	23	136	99	314	0	92	20	168	7	
R3	23	133	95	336	0	96	19	178	8	
R4	21	132	90	354	0	100	19	179	10	
R5	20	128	87	365	0	103	17	178	11	
R6	20	126	84	367	0	107	17	176	11	
R7(B)	20	120	83	365	0	115	17	175	10	
比較(B-A)	△35		80		86		△7	90	9	

※家庭的保育事業等については、下記URLをご参照ください。

<https://www.city.nagoya.jp/kodomoseishonen/page/000097852.html>



#### 4 幼稚園・保育所・認定こども園の園児数（3～5歳児）

→幼稚園園児数は急減する一方で、保育所や認定こども園が増加

区分	幼稚園			保育所			認定こども園		
	公立	私立	計	公立	民間	計	公立	私立	計
H 2 7 (A)	2,156	27,626	29,782	7,506	14,141	21,647	0	3,601	3,601
H 2 8	2,106	26,882	28,988	7,242	14,496	21,738	0	4,496	4,496
H 2 9	2,098	25,842	27,940	7,004	14,168	21,172	0	5,937	5,937
H 3 0	2,039	24,604	26,643	6,727	14,241	20,968	0	7,180	7,180
R 1	1,982	23,226	25,208	6,572	14,123	20,695	0	8,755	8,755
R 2	1,760	22,602	24,362	6,342	14,439	20,781	0	9,396	9,396
R 3	1,546	21,292	22,838	5,988	15,246	21,234	0	9,793	9,793
R 4	1,373	19,613	20,986	5,688	15,953	21,641	0	9,772	9,772
R 5	1,323	17,041	18,364	5,412	16,436	21,848	0	9,860	9,860
R 6 (B)	1,210	15,837	17,047	5,140	16,591	21,731	0	9,924	9,924
R 7	1,156	(調査中)		4,981	16,524	21,505	0	10,712	10,712
比較 (B-A)	△ 12,735			84			6,323		

#### 5 幼稚園・保育所・認定こども園の入園率（3～5歳児）

区分	幼稚園			保育所			認定こども園		
	公立	私立	計	公立	民間	計	公立	私立	計
H 2 7 (A)	3.9%	50.2%	54.1%	13.6%	25.7%	39.3%	0.0%	6.5%	6.5%
H 2 8	3.8%	48.7%	52.5%	13.1%	26.3%	39.4%	0.0%	8.1%	8.1%
H 2 9	3.8%	46.9%	50.8%	12.7%	25.7%	38.5%	0.0%	10.8%	10.8%
H 3 0	3.7%	44.9%	48.6%	12.3%	26.0%	38.3%	0.0%	13.1%	13.1%
R 1	3.6%	42.5%	46.1%	12.0%	25.8%	37.9%	0.0%	16.0%	16.0%
R 2	3.2%	41.4%	44.7%	11.6%	26.5%	38.1%	0.0%	17.2%	17.2%
R 3	2.9%	39.5%	42.4%	11.1%	28.3%	39.4%	0.0%	18.2%	18.2%
R 4	2.6%	37.4%	40.1%	10.9%	30.4%	41.3%	0.0%	18.6%	18.6%
R 5	2.6%	34.0%	36.7%	10.8%	32.8%	43.6%	0.0%	19.7%	19.7%
R 6 (B)	2.5%	32.5%	35.0%	10.6%	34.1%	44.6%	0.0%	20.4%	20.4%
比較 (B-A)	△19.1%			5.3%			13.9%		

6 特別な配慮を要する児童・園児の推移

→特別な配慮を要する児童・園児の増加傾向

年度	市立小学校			市立幼稚園			公立保育所・民間保育所・認定こども園 (2・3号利用の0~5歳児)			
	特別支援 学級児童数	全児 童数	割 合	診断名の ある園児数	全園児 数	割 合	障害児 利用児童数		全児 童数	割 合
H27	1,347	110,779	1.2%	31	2,156	1.4%	公立	692	40,944	3.5%
							民間	744		
H28	1,441	111,075	1.3%	43	2,106	2.0%	公立	709	42,660	3.7%
							民間	849		
H29	1,484	111,753	1.3%	71	2,098	3.4%	公立	747	44,388	3.8%
							民間	934		
H30	1,627	112,176	1.5%	93	2,039	4.6%	公立	763	45,805	3.8%
							民間	960		
R1	1,745	112,106	1.6%	70	1,982	3.5%	公立	728	47,313	3.8%
							民間	1,073		
R2	1,850	111,772	1.7%	63	1,760	3.6%	公立	751	48,106	4.0%
							民間	1,176		
R3	1,962	110,877	1.8%	56	1,545	3.6%	公立	739	48,757	4.3%
							民間	1,373		
R4	2,088	110,233	1.9%	53	1,373	3.9%	公立	779	49,173	4.7%
							民間	1,516		
R5	2,298	109,096	2.1%	64	1,323	4.8%	公立	813	49,598	5.1%
							民間	1,701		
R6	2,508	108,388	2.3%	68	1,210	5.6%	公立	836	49,708	5.4%
							民間	1,851		

## II 幼児教育を取り巻く状況

H30.4	『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂（定）』 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の3施設で「幼児教育を行う施設」として「幼児期に育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通化
R1.10	『幼児教育・保育の無償化』 幼稚園や保育所、認定こども園等を利用する3歳から5歳の全ての子どもたちの利用料を無償化
R3.1	『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』（中央教育審議会答申） 小学校との円滑な接続の推進について提言
R5.2	『学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について』（中央教育審議会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会まとめ） ①架け橋期の教育の充実、②幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有、③特別な配慮を必要とする子供や家庭への支援、④全ての子供に格差なく学びや生活の基盤を育むための支援、⑤教育の質を保障するために必要な体制等、⑥教育の質を保証するために必要な調査研究等について提言
R5.4	『こども家庭庁の設置』『こども基本法の施行』 こどもに関する取組や政策を我が国社会の真ん中に据える「こどもまんなか社会」を目指すための新たな司令塔として、こども家庭庁を内閣府に設置 (保育所及び認定こども園はこども家庭庁が、幼稚園は引き続き文部科学省が所管)
R5.6	『第4期教育振興基本計画の策定』（閣議決定） 「日本社会に根差したウェルビーイングをの向上」の推進を明示
R5.9	『ナゴヤ学びのコンパスの策定』 子どもたちが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えを示す
R5.12	『こども未来戦略』（閣議決定） ①子育て世帯の家計を応援、②すべてのこどもと子育てを応援、③共働き・共育てを応援、を戦略の基本理念として掲げ、少子化対策にむけた子育て施策を推進
R6.3	『第4期名古屋市教育振興基本計画の策定』（コンパスぶらん） 「子ども中心の学び」を推進
R6.10	『今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告』 ①社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方、②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育活動の成果と課題等、③必要な条件整備について提言
R6.12	『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について』（中央教育審議会諮問） 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方、設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上を図る共通的方策について諮問
R7.4	『こども誰でも通園制度』の試行実施 0歳6か月から満3歳未満の未就園児を対象に、月一定時間までの利用可能枠の中で、保護者の就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園できる制度（令和8年度からは全国で実施予定）
R7.4	『保育所、認定こども園における保育の内容の基準等の在り方について』（こども家庭審議会諮問） 検討にあたり、保育所、幼保連携型認定こども園及び幼稚園の教育・保育内容の基準の整合性を確保する観点から、中央教育審議会と緊密に連携するよう留意

## 4 (3) 「実施計画」の実施状況等について

※太斜体字は令和4年度中間評価の際に、追加になった項目

(令和6年度末時点)

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
<b>II 本市の幼児教育の振興を図るための取り組み</b>				
<b>1 市立幼稚園の取り組み</b>				
<b>(1) 全園での取り組み</b>				
<p>本市の幼児教育 アの質を向上させる 実践研究</p>	<p>・名古屋市学校教育の努力目標とそれぞれの園の実情に応じた主題を各園が設定し、実践研究を行い、その研究成果については実践研究報告会において広く公開しました。</p> <p>【研究テーマ例】 自分が大事 友達が大事 ～一人一人の心が動く環境の構成を考える～（R6年度：第二幼稚園）</p> <p>・「ナゴヤ・スクール・イノベーション事業の推進」として、各プロジェクトで実践研究を行い、公開保育や動画作成を行いました。</p> <p>①マッチングプロジェクト：（R3,4年度）第一幼稚園、第三幼稚園、鳴子幼稚園、吹上幼稚園、荒子幼稚園 ②すすめるプロジェクト：（R5,6年度）第二幼稚園、猪高幼稚園、（R6,7年度）高田幼稚園 ③つながるプロジェクト：（R5,6年度）春田幼稚園・春田小学校、常磐幼稚園・常磐小学校、（R6,7年度）西山台幼稚園・あいわ幼稚園・名東小学校・西山小学校・神丘中学校 ④新しい学校づくり推進課と協働して幼稚園教育実践動画を作成（R5年度）</p>	<p>≪成果≫</p> <p>・実践研究報告会では共通点となるキーワードや特に大切にしたい要素を基に協議を進め、短い時間の中でもポイントを絞って話し合うことができ、学びを深めることができました。</p> <p>・公開保育では、ナゴヤ学びのコンパスの浸透により小学校からの参加が増え、幼児教育の大切さや一貫した学びについての理解が深まりました。</p> <p>（R4）19人（幼保12人、小7人） （R5）30人（幼保10人、小20人） （R6）42人（幼保11人、小31人）</p> <p>≪課題≫</p> <p>・プロジェクト終了後や教職員の異動後も取組を継続したり充実させたりするなど、継続性を確保することが必要です。</p> <p>・公開保育で他校種の教員等との対話を通して得た改善点や新たな発見をフィードバックすることが重要です。</p> <p>・プロジェクトをきっかけに地域の幼児教育施設との連携を深め、横のつながりを強化することが重要です。</p>	7	1

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
園舎・園庭の開放による子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育時間終了後や長期休業中に園舎・園庭の開放を実施し、地域の未就園児の親子に対して、安心して遊ぶ場を提供しました。</li> <li>・保育時間中に園の行事参加、「親子で遊ぶ会」の設定、園長や教員による子育て相談など、地域の未就園の親子に対して、安心して遊ぶ場や気軽に子育ての悩みの相談ができる場を提供しました。</li> </ul>	<p>《成果》</p> <p>幼稚園の子育て支援（園舎・園庭開放 子育て相談未就園児の遊びの会）に満足していますか。⇒ 96.2%</p>	8	2
預かり保育による子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全園において、教育時間終了後の「預かり保育」を実施し、子育て支援の充実に努めました。</li> <li>・令和5年度から2園（第一幼稚園・第三幼稚園）において、早朝、夕刻の預かり保育時間の拡充を試行実施しました。</li> </ul>	<p>《成果》</p> <p>就労していても幼稚園に通わせたい保護者にとって、幼稚園を就園先として選択できるようになりました。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間の保育になることによる幼児の心身の負担を考慮した教育内容を研究し、指導計画を作成することが必要です。</li> <li>・単学級園での試行実施も含め、他の園への展開を検討することが必要です。</li> </ul>	8	3

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
(2) 今日的な課題への取り組み				
ア 幼保小接続の取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育開始前後の5歳児から小学校第1学年の2年間（架け橋期）の教育の充実を目指し、幼児教育支援室が中心となり、幼保小接続リーフレットや幼保小接続資料を作成し、市内幼児教育施設や小学校に発信しました。</li> <li>・市内幼児教育施設と小学校の教職員が集い、幼保小接続の理念を学んだり、小グループで対話する幼保小接続セミナーや幼保小接続研修会を実施しました。</li> <li>・幼保小接続を推進するため、令和7年度から小学校の校務分掌に「幼保小接続担当」を新設しました。</li> </ul>	<p>≪成果≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の発信により、架け橋期の教育の理解が深まりました。</li> <li>・定期的な研修会開催により、幼保小の連携や接続に向けて自校・園でできることを考える教職員が増えました。参加者アンケートの満足度は97%で「できそうなことからやっていきたい」、「校種を超えて教育の話ができ、有意義だった」という意見が多く挙がっていました。</li> <li>・「幼保小接続担当」の明確化により、「幼保小接続研修会」への小学校教員の参加が例年の100人程度から162人（R7.5.29現在）に増加しており、各学校での幼保小接続に関する理解と周知が期待されます。</li> </ul> <p>≪課題≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小の学びをつなげるために地域の幼児教育施設同士の連携を図ることが必要です。</li> <li>・互惠性のある幼保小連携にしていくことが必要です。</li> <li>・多忙な職員同士が連携を図るための工夫が必要です。</li> </ul>	9	4

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
<p>特別な配慮を必要とする子どもへの支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家チームや学校生活介助アシスタント、発達障害対応支援員などを活用した支援の充実を図りました。</li> <li>・ 特別な配慮を必要とする子どもへの接し方について、幼稚園新規採用教員研修会及び幼稚園教職経験者研修会（幼稚園5年研）、幼児教育研修会、派遣型研修会等で学ぶ機会を設けています。</li> <li>・ インクルーシブ教育の実践研究に取り組み、令和4年度に公私幼保等へ成果を発信しました。（春田幼稚園・猪高幼稚園）</li> </ul>	<p>≪成果≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家チーム等を活用することにより、子ども一人一人の特性や発達の状況を理解し、その子の特性に応じた関わりや保護者支援をすることや、幼児教育支援室の様々な研修を通して、専門性を高めることができました。</li> <li>・ 今日の教育課題であるインクルーシブ教育について、その意味の理解を深めたり、環境の構成について具体的に学んだりして、実践に生かすことができました。</li> </ul> <p>≪課題≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の子どもの特性に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うための人員配置が必要です。</li> </ul>	9	5
<p>地域に開かれた幼稚園づくり</p>	<p>各園の実情に応じて、地域行事への参加や地域の方との交流など、身近にある地域資源を生かした教育実践を行いました。</p> <p><b>【実践例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の畑でジャガイモ掘り（植田幼稚園）</li> <li>・ 親子で有松絞りのオリジナルTシャツ作り（桶狭間幼稚園）</li> </ul>		10	

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
<p style="text-align: center;"><b>エ</b> 預かり保育時間 の拡充</p>	<p>【再掲】令和5年度から2園（第一幼稚園・第三幼稚園）において、早朝及び夕刻の預かり保育時間の拡充を試行実施しました。</p>	<p>【再掲】</p> <p>≪成果≫ 就労していても幼稚園に通わせたい保護者にとって、幼稚園を就園先として選択できるようになりました。</p> <p>≪課題≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間の保育になることによる幼児の心身の負担を考慮した教育内容を研究し、指導計画を作成することが必要です。</li> <li>・単学級園での試行実施も含め、他の園への展開を検討することが必要です。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">R4 追加</p>	
<p style="text-align: center;"><b>オ</b> 満3歳児の受け 入れ</p>	<p>該当年度に3歳の誕生日を迎える子どもを対象として、令和5年度から第三幼稚園に満3歳児学級を試行的に開設し、保護者の子育てに関する不安や悩みの解消、子育ての閉塞感、孤立感の軽減など子育ての支援の充実を図りました。</p>	<p>≪成果≫ 保護者の満足度が高く、また前年に満3歳児学級に通った園児が、3歳児学級に進級し、一年の経験を経て教師を信頼し安心して過ごす姿や意欲的に遊ぶ姿が、新入園児に良い影響を与えています。</p> <p>≪課題≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践研究を実施するための研究体制の整備が必要です。</li> <li>・試行園の研究実践を進め、成果を実証し、全園へ展開する可能性を検証することが必要です。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">R4 追加</p>	
<p style="text-align: center;"><b>カ</b> 希望者へのラン チ提供</p>	<p>ランチ提供できる業者をリストアップし、配達区域や1食価格、支払い方法、発注期限、アレルギー対応の有無等を調査しました。また園独自の取り組みとして、様々な事情により弁当を用意できない保護者のため、業者弁当を提供しました。</p>	<p>≪課題≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業者ランチの希望者数が少ないため、受け入れ業者の採算が合わず導入ハードルが高いです。</li> <li>・幼稚園向けのランチメニューではないため栄養面やアレルギー対応の課題があります。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">R4 追加</p>	



「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
<p style="text-align: center;"><b>キ 市立幼稚園の魅力発信</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のウェブサイト幼児教育支援室のページを作成し、取り組みの周知や、研究成果の資料を掲載しました。</li> <li>・園独自でSNSを作成し配信しました。 Instagram：おりべ幼稚園はじめ6園 YouTube：第二幼稚園はじめ6園 園公式LINE：楠西幼稚園</li> </ul>	<p>≪成果≫ 幼児教育支援室の実施事業の周知につながりました。</p> <p>≪課題≫ SNSでの発信にかかる業務が教職員の負担につながっています。</p>	R4 追加	
<p style="text-align: center;"><b>ク ICTの活用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全園に保育アプリを導入し、欠席連絡やお便りの配信等で保護者の利便性向上と教職員の業務削減を図りました。また、日ごろの教育実践や子どもの育ちについて写真とコメント等で配信する保育ドキュメンテーションを活用することにより、保護者の幼児教育へ理解を深め、目指す子ども像に向けた幼児教育の質の向上を図りました。</li> </ul>	<p>≪成果≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の利便性向上と教職員の負担軽減（欠席連絡、電子配信化による印刷・配布業務削減、ペーパーレス化、写真の活用による記録作成軽減等）につながりました。</li> <li>・保育ドキュメンテーションの作成・配信により、教員同士、教員と保護者、保護者と子どものコミュニケーションを深めることができました。</li> </ul>	R4 追加	

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
2 「幼児教育センター」の設置			11	
(1) 設置のねらい				
	本市の幼児教育の質の向上を図る拠点として、令和元年度に「幼児教育支援室」を設置しました。			
(2) 事業内容				
ア 調査研究事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児教育の質の向上」を課題として、「環境の構成 アイデア・ポイント集」を作成し、データを市内すべての小学校と幼児教育施設に配付しました。</li> <li>・「幼保小接続」を課題として、「幼保小接続リーフレット・資料」や名古屋市教育課程「幼保小接続章」を作成し、市内すべての小学校と幼児教育施設に配付しました。</li> <li>・幼保小交流活動の推進を図るため、推進園6園（第一幼稚園・第三幼稚園・二城幼稚園・春田幼稚園・常磐幼稚園・荒子幼稚園）を指定して実践及び事例収集を行いました。</li> <li>・幼保小接続セミナー、幼保小接続研修会を開催しています。</li> </ul>	<p>《成果》</p> <p>作成した資料等を市内幼児教育施設で活用できるように各種研修を通して普及したり、セミナーや講演会では課題につながる知識の習得と、参加者同士の対話によって地域での幼保小連携・接続の取組推進につながりました。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設類型及び校種の違いがある中で、互いの理解を深め、子どもの未来のために理念を共有して進めることが必要です。</li> <li>・地域・学校園により、幼保小接続への取組の進み具合や進め方が多様であるので、それぞれの課題にあった好事例を収集し、共有することが重要です。</li> </ul>	11	6

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
イ 研修事業	<p>保育者の資質や実践力向上のための研修を企画・実施しました。</p> <p>①基本的な研修（新採研・5年研・10年研）</p> <p>②公私幼保等に開かれた実践研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育支援室研修実施協議会では、公私幼保の4団体で研修内容について協議を行いました。</li> <li>・市立幼稚園で取り組む実践研究の成果に関する「実践研究報告会」や市立幼稚園で「公開保育」を年2回開催し、公私幼保等の施設の職員が幼児期の教育について学び合う研修を実施しました。</li> <li>・園内研修の充実のため、幼児教育アドバイザーを派遣し、市立幼稚園を会場とした「派遣型研修会」を実施しました。</li> <li>・今日的な教育課題に関する「幼児教育研修会」ではオンデマンド研修とし、より多くの保育者が受講できるようにしました。</li> </ul>	<p>《成果》</p> <p>幼児教育施設の職員同士が、研修で実際に保育や環境を見たり、意見交換を行うことにより、幼児期の教育について互いに学び合い、自園の保育に生かそうとする意欲向上や実践力向上につながりました。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたい保育者がより参加しやすくより学びを得られるような、研修形態（集合型とオンデマンド型のバランス）を工夫し実施することが必要です。</li> <li>・幼児教育の理解発展のための、幼児教育施設間の相互理解を促進することが重要です。</li> </ul>	12	7
ウ 子育て支援事業			12	8
(ア) 親子の絆サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度より専門家による「子育てラウンドテーブル」を実施しました。（R6年度：14回実施）</li> <li>・令和4年度から「親子わくわく広場」や「子育てセミナー」を実施しました。（R6年度：広場6回、セミナー3回）</li> </ul>	<p>《成果》</p> <p>保護者の子育てに対する安心感や新たな気付き、希望へとつながったり、遊びの意義を知り関わろうとする意欲の向上につながりました。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しやすい環境づくりの工夫が必要です。</li> <li>・開催周知の方法の工夫が必要です。</li> <li>・保護者が集中してセミナーに参加できるサポート環境（人的・物的）の整備が必要です。</li> </ul>		

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
(イ) 「ことばの教室」	<p>言葉の発達に課題の見られる幼児とその保護者への指導助言を行うために、「幼児の育ち応援ルーム」を3カ所開設しました。</p> <p>医学博士・言語聴覚士の資格を持つスーパーバイザーの指導の下、ことばの指導推進員が保護者の相談に応じ、一人一人の幼児の言葉の発達の課題に対応した個別指導を行っています。</p> <p>また、令和7年4月より、待機者解消のために「たんぽぽ」(第三幼稚園内)に指導員を1人増員しました。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長を実感するとともに、指導員との対話を通して、保護者の不安を緩和し、前向きな姿勢へとつながりました。</li> <li>・療育センターや病院の受診に抵抗のある保護者も相談しやすく、相談の入口的役割を果たしています。</li> <li>・「たんぽぽ」の増員により、待機者解消につながりました。(令和7年5月現在)</li> <li>・保護者アンケートの満足度は100%で、「発音や滑舌がよくなり、語彙が増えた」という意見が多く挙がり、幼児の言葉の発達と保護者支援につながっています。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通いやすさと、相談しやすい状況を確認することが必要です。</li> <li>・子どもが安心して通い、言葉の発達を促すため、一層の環境や教材を充実することが必要です。</li> </ul>		
(ウ) 公私幼保等の施設における子育て支援情報の共有	<p>幼児教育施設と連携し、「幼児の育ち応援ルーム」「ことばの相談室」をはじめとする各事業の情報共有や周知を行いました。</p>	<p>《成果》</p> <p>施設類型問わず多くの施設、地域からの申し込みが増えています。</p> <p>《課題》</p> <p>より広く周知を図るための工夫が必要です。</p>		

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
<b>3 市立幼稚園の教育環境の整備</b>				
<b>(1) 職員体制</b>				
職員体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な園運営を行うとともに、幼児教育を取り巻く今日的な教育課題への対応の充実を図るため、吹上幼稚園、春田幼稚園、猪高幼稚園については職員体制を充実させました。</li> <li>・幼稚園における事務負担軽減のため、16園に庶務事務職員を配置しました。</li> </ul>	<p>《課題》</p> <p>子どもが健やかに成長するように、質の高い幼児教育を提供することが一層求められていることから、教職員の資質や専門性を高めるための機会を確保するためにも、事務的な仕事量が軽減できるような教職員配置を行う必要があります。</p>	14	
<b>(2) 幼稚園施設の整備</b>				
老朽化対策・施設整備	<p>「名古屋市学校施設リフレッシュプラン」（平成29年8月策定）に基づき、築年数に応じた改修工事を実施しました。またすべての保育室へ空調整備を行ったり、園庭の芝生化を行いました。</p>	<p>《課題》</p> <p>改修工事のために仮設園舎を建築する土地がない園においては、順番に改修工事を行うため、工事期間中大きな音等が発生し、子どもたちの教育保育環境に影響があります。</p>	14	9
<b>(3) 市立幼稚園の授業料</b>				
授業料	<p>子ども・子育て支援法の改正により、3歳から5歳までの全ての子どもについて、令和元年10月より市立幼稚園の利用料（授業料及び入園時加算）は無償化になりました。</p>		14	

「実施計画」記載の取組項目	実施内容	成果及び課題	掲載 頁	参考 資料
<b>Ⅲ 市立幼稚園の再編について</b>				
<b>2 再編対象園の選定</b>				
<b>(2) 再編対象園</b>				
閉園	令和3年度末に報徳幼稚園及びはとり幼稚園を、令和4年度末に比良西幼稚園を閉園しました。		17	
<b>3 閉園後の跡地及び施設の活用</b>				
跡地活用	<p>【報徳幼稚園】令和6年度から教育支援センター第3サテライトとして活用しています。</p> <p>【はとり幼稚園】近隣の名古屋市立富田第三保育園の移転改築用地として、令和6年度から民間移管の保育園として活用しています。</p> <p>【比良西幼稚園】令和6年度末に民間企業に売却しました。</p>		18	

## 市立幼稚園の今後のあり方について（課題認識や期待すること）

## ○相澤京子 委員

- ・市立幼稚園の存在意義及び情報発信
- ・公立保育所と市立幼稚園の連携・すみわけ・役割分担

## ○伊藤知穂美 委員

- ・幼保小接続の更なる拡充
- ・先進的教育の推進
- ・すべての子どもに質の高い幼児教育を保障すること
- ・人的・物的環境の充実

## ○上田敏丈 委員

- ・保護者のニーズに合わせた幼児教育・保育の提供
- ・地域の教育力を牽引する研修・研究・発信する機能

## ○河村暁 委員

- ・市立幼稚園の存在意義
- ・名古屋市が考える幼児教育

## ○笹口真 委員

- ・円滑な幼小接続、教育改革への視点や実践、教職員の労働環境
- ・先進的な研究・実践・公開、保護者ニーズに対応した運営

## ○高木良昌 委員

- ・市立幼稚園の魅力の積極的な広報・情報提供の強化
- ・多様な働き方に対応した利用しやすい環境整備

## ○津金美智子 委員

- ・教育実践推進園(モデル園)
- ・名古屋市における「学びのコンパス」を主導する幼児教育の拠点園
- ・幼保小接続の実施・改善等を図る上で、小学校（タテ）と幼児教育施設等(ヨコ)をつなぐ結節点
- ・全ての幼児に質の高い幼児教育の機会の保障

○恒川和久 委員

- ・ 今後の名古屋市における幼児教育や子育て・保育環境のあり方の具体的な方針
- ・ 公私、幼保、こども園も含めた市民ニーズの把握と、それを踏まえたそれぞれが果たすべき役割
- ・ 他都市や先進的取り組みを行っている自治体事例

○藤岡省吾 委員

- ・ 今後の役割
- ・ 幼児数減少下における私立幼稚園との適切な配置状況
- ・ 市内公私幼稚園、保育園、認定こども園の教育・保育の質の向上の一体的な検討

○水野めぐみ 委員

- ・ 市立幼稚園における職員体制
- ・ 市立幼稚園の魅力や今後の役割



## 参 考 資 料

- 参考資料1 ナゴヤ・スクール・イノベーションの推進【1(1)ア】
- 参考資料2 園舎・園庭開放による子育て支援【1(1)イ】
- 参考資料3 預かり保育による子育て支援【1(1)ウ】
- 参考資料4 幼保小接続リーフレット【1(2)ア】
- 参考資料5 特別な配慮を必要とする子どもへの支援【1(2)イ】
- 参考資料6 幼児教育支援室の概要【2(2)ア】  
環境の構成 アイデア・ポイント集（3歳児編）（抄）
- 参考資料7 研修事業について【2(2)イ】
- 参考資料8 子育て支援事業【2(2)ウ】
- 参考資料9 幼稚園施設の整備【3(2)】
- 参考資料10 市立幼稚園の配置
- 参考資料11 市立幼稚園の定員・園児数・充足率について
- 参考資料12 市立幼稚園の施設概要について



## 1 (1) ア ナゴヤ・スクール・イノベーション事業の推進

教育改革を市全体で推進するため、「ナゴヤ・スクール・イノベーション」と銘を打ち、子ども一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進しています。

### ①「マッチングプロジェクト」

幼稚園・小学校・中学校・高等学校の各校種において、学校園がめざす子ども像の実現に向けた課題・ニーズと民間事業者のもつ知識・技術・ノウハウ等の力をマッチングさせて、官民連携で学びの転換を進めています。

《実績》

R3・4年度：第一、第三、吹上、荒子、鳴子幼稚園の5園合同で実施

### ②「すすめるプロジェクト」

「ナゴヤ学びのコンパス」※が目指す「子ども中心の学び」の実現に向けた実践を行います。

《実績》

R5・6年度：第二幼稚園、猪高幼稚園

R6・7年度：高田幼稚園

### ③「つながるプロジェクト」

幼児・児童・生徒同士や教職員間の交流など、学校園間連携による特色ある実践を行います。

《実績》

R5・6年度：春田幼稚園（春田小学校）、常磐幼稚園（常磐小学校）

R6・7年度：西山台幼稚園

（あいわ幼稚園、名東小学校、西山小学校、神丘中学校）

### ※ナゴヤ学びのコンパスとは

子どもたちが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えを示したものです。自律して学び続ける子どもの育成を目指し、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にしていきます。

## 参考資料 2

### 1 (1) イ 園舎・園庭開放による子育て支援

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
① 園舎・園庭開放	295回 8,003人	239回 5,778人	318回 7,924人	338回 9,334人	343回 9,183人
1園あたりの回数	約13回	約10回	約14回	約17回	約17回
1回あたりの参加人数	27人	24人	25人	28人	27人
② 未就園児の親子登園	288回 7,116人	256回 6,308人	336回 8,663人	347回 9,266人	341回 8,753人
1園あたりの回数	約13回	約11回	約15回	約17回	約17回
1回あたりの参加人数	25人	25人	26人	27人	26人
③ 子育て相談	322回 2,414人	266回 2,237人	358回 3,281人	349回 3,499人	341回 3,103人
1園あたりの回数	約14回	約12回	約16回	約17回	約17回
1回あたりの参加人数	7人	8人	9人	10人	9人
④ 子育て井戸端会議	308回 4,845人	256回 3,338人	358回 4,935人	348回 5,653人	341回 5,471人
1園あたりの回数	約13回	約11回	約16回	約17回	約17回
1回あたりの参加人数	16人	13人	14人	16人	16人
園数	23園	23園	21園	20園	20園

## 1 (1) ウ 預かり保育による子育て支援

### 【預かり保育時間について】

	18園	2園（拡充試行園）
早朝保育	実施なし	7時30分～教育時間開始まで
教育時間終了後	教育時間終了～17時	教育時間終了後～18時30分
長期休業中	9時～17時	7時30分～18時30分

### 【預かり保育拡充の変遷】

年度	預かり保育 実施園数	長期休業中 実施園数	非常勤講師 時間数	
平成25年度	17園	1園(はとり)	夏季休業中10日間の園：660時間 長期休業中実施園：917時間	
平成26年度 ～平成28年度	23園			
平成29年度	23園（全園）		8園	夏季休業中10日間の園：702時間 長期休業中実施園：959時間
平成30年度		16園		夏季休業中10日間の園：840時間 長期休業中実施園：1,097時間
令和元年度				
令和2年度 ～令和3年度				
令和4年度	21園（全園）	21園（全園）	全園：1,188時間	
令和5年度	20園（全園）	20園（全園）	18園：1,188時間 2園：2,193時間	
令和6年度	20園（全園）	20園（全園）	18園：1,188時間 2園：2,193時間	

【利用状況】

No	園名	平成28年度					令和6年度				
		5/1園児数	実施日数	延べ利用者数	実利用者数	1人あたり平均利用回数	5/1園児数	実施日数	延べ利用者数	実利用者数	1人あたり平均利用回数
1	第二	133	175	3,767	138	28.3	77	229	3,062	65	39.8
2	第一	118	170	4,227	119	35.8	95	223	6,651	101	70.0
3	大幸	97	170	3,008	90	31.0	60	217	2,598	62	43.3
4	報徳	41	168	1,509	42	36.8					
5	楠西	50	173	790	48	15.8	31	218	1,548	30	49.9
6	おりべ	51	170	1,893	53	37.1	33	237	2,046	31	62.0
7	第三	89	174	2,287	86	25.7	91	220	7,437	103	81.7
8	比良西	69	170	982	54	14.2					
9	吹上	84	166	2,608	87	31.0	82	229	4,771	82	58.2
10	高田	66	173	1,783	64	27.0	44	230	4,239	53	96.3
11	常磐	75	168	2,327	69	31.0	44	226	2,822	38	64.1
12	荒子	27	183	1,327	25	49.1	36	220	1,114	33	30.9
13	春田	66	174	2,197	63	33.3	44	231	1,993	45	45.3
14	はとり	66	202	1,680	61	25.5					
15	二城	124	170	2,360	116	19.0	32	230	2,213	30	69.2
16	鳴子	118	169	2,383	115	20.2	67	231	3,376	64	50.4
17	桶狭間	117	174	2,033	110	17.4	41	230	2,023	36	49.3
18	大高	76	173	2,627	81	34.6	51	235	3,094	54	60.7
19	神の倉	104	170	2,048	97	19.7	53	226	2,919	46	55.1
20	西山台	160	162	2,336	160	14.6	106	223	4,996	107	47.1
21	猪高	150	170	3,262	151	21.7	89	230	4,604	101	51.7
22	梅森坂	76	171	2,279	78	30.0	32	231	1,543	34	48.2
23	植田	149	168	2,651	135	17.8	102	232	4,176	86	40.9
合計		2,106		52,364	2,042	24.9	1,210		67,225	1,201	55.6

# 幼児教育と小学校教育との 円滑な接続に向けて

～幼児期の遊びを通じた主体的・対話的で深い学びを  
小学校での学びにつなぐ～

幼児期から児童期へ子どもの発達や学びは連続しています。そのため、幼児教育と小学校教育で育成を目指す資質・能力が一貫して育まれるように、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る必要があります。そして、それぞれの時期の発達の特性から教育内容や方法の違いはあれども、双方の教育において「主体的・対話的で深い学び」を重視していることは同じです。こうした共通の視点から、子どもの発達や学びの姿への認識を深め、理解し合い、一貫した質の高い教育を目指すことが求められます。このリーフレットがその一助となり、実践に活用していただけることを願います。



学 び を つ な ぐ !



このリーフレットでは、幼児期の自発的な活動としての遊びを通して育まれる学びとはどのようなことか、その指導の際、教師は何を大事にしているか、さらに、その学びが小学校における各教科等の学習にどのようにつながるのかを事例を通して示しています。

名古屋市教育委員会 指導部指導室 幼児教育支援室 令和5年2月



# 遊びや生活を通して総合的に学ぶ幼児教育

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」平成28年12月21日 中央教育審議会より引用

<b>「主体的な学び」</b>	周囲の環境に興味や関心を持って積極的に働き掛け、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待を持ちながら、次につなげる学び
<b>「対話的な学び」</b>	他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広げ深める学び
<b>「深い学び」</b>	直接的・具体的な体験の中で、「見方・考え方」を働かせて対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返し、生活を意味あるものとして捉える学び

## 幼児期の「遊びを通した学び」とは・・・



「遊び」って、ただ遊んでいるだけではないのですか？

いえいえ、幼児は自分の思いを言葉や行動で表し、発想を生かして実現しようとする過程で、様々な「学び」を得ています。その「学び」を支えるのが私たち教師の役目です。



### コロナ禍の夏休み中の5歳児

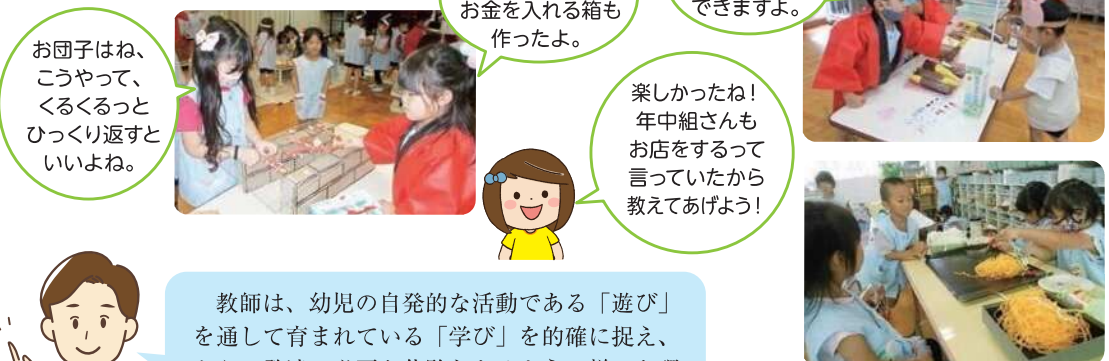


### 2学期「夏祭り」の準備の様子

幼児のしたいことができるように材料を準備しておこう。



### いよいよ「夏祭り」本番・・・



教師は、幼児の自発的な活動である「遊び」を通して育まれている「学び」を的確に捉え、さらに発達に必要な体験となるように様々な環境の構成をしたり、援助をしたりしています。詳しくは、実践事例を読んでみますね。

【自分たちもお店を出して楽しむ年中児】



☆ 活動は違いますが、幼児教育も



## 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

## 【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び

## 【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び

## 小学校における「なかまなビジョン」の取り組みとは…

名古屋市は、「なかま」との対話を大切にしたい、主体的な「学び」を目指し、どのような力を付けるのかといった授業に「ビジョン」をもつことを重視した授業改善を進めています。生活科での授業改善のポイントは、「幼児期の教育との連携や接続を意識したり、他教科との関連についてカリキュラム・マネジメントの視点から検討したりして、スタートカリキュラムを作成し、より自覚的な学びに円滑に移行できるようにする」です。



小学校の教師

### 単元の流れ

#### めあてをつかむ

- ▶ 単元のゴールに「○○をしよう」という具体的な思いや願いをもつことができるようにします。



やさしいパーティーを開こう。

いろいろなおもちゃでみんなで遊ぼう。



#### 自分の考えをもつ

- ▶ 「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」といった直接的な活動を中心に、対象に十分関わり、自分の思いや願いを実現するための考えをもつことができるようにします。



水と一緒に肥料もやると、やさいさんが元気になるよ。

紙とんぼの羽根の曲げ方を変えると、高く飛んだよ。



#### なかまと対話する

- ▶ ペアや少人数(3~4人)で考えを聞き合い、自分の考えをより良くしたり、確かなものにしたりすることができるようにします。
- ▶ 「自分の考えをもつ」と「なかまと対話する」を複数回設定します。



○○さんと話したら、水をやりすぎていたことが分かったよ。これからは少しにしよう。

羽根がやわらかすぎたから飛ばなかったんだね。○○さんみたいに、かたい羽根にしてみよう。



#### まとめる

- ▶ 思いや願いを実現させた後、この単元でできるようになったことを表現することができるようにします。



みんなでやさしいパーティーができたよ。自分たちで育てたから、苦手なピーマンも食べたよ。

自分で紙とんぼが作れたし、ほかけ車も作れるようになったよ。



#### 振り返る

- ▶ 学習したことを基に、新たな思いや願いをもち、次の活動につなげることができるようにします。



次は、秋からショウガツナを育てて、お雑煮パーティーをしたいな。

作ったおもちゃで幼稚園の子と遊ぼうよ。



「なかまなビジョンアラカルト 生活科」  
平成29年2月名古屋市教育委員会より引用

小学校教育も主体的・対話的で深い学びを大切にしています。

実践事例

5歳児6月上旬 「ありがとうのとう、とうやのとうだ」  
～偶然の気付きに、書きたい気持ちがふくらんでいく幼児の姿～

5月、母の日のプレゼントを作った際、幼児は、教師が印刷した「ありがとうの手紙」に色をぬったり、伝えたい思いを教師に代筆してもらったり、自分の名前や文字（のよなもの）を書いたりした。

この時期の「とうや」は、絵本の文字を拾い読みしたり、自分の作ったものに名前を書こうとしたり、文字への関心が出てきていた。母の日の手紙では自分の名前の「と」の字が鏡文字になりながらも、何度も消しては書き直し、自分で名前を書こうとしていた。この手紙を母親は、大変喜んで受け取った。

【ねらい】 自分の思いや考えを、互いに出し合いながら友達と遊ぶ楽しさを味わう。  
【環境の構成】 友達の影響を受けながら自分の思いやイメージを様々な方法で表現できるような材料や用具を用意する。（母の日の手紙を書いた姿から、文字への関心が生かせるような手紙の用紙など）

幼児の姿と教師の援助

ポイントとなる幼児の言動

幼児の姿をどう捉えるか（遊びを通した学び）

【父の日のプレゼントを作る場面で】

プレゼントができあがると、幼児の中から、「手紙も書きたい」という声があがった。

この姿を捉え、以下のような手紙の用紙を用意した。



学級の全ての幼児が文字を書ける発達の段階ではない。そこで、あらかじめ「おとうさん いつもありがとう」の文字は印刷し、絵、文字、自分の名前などが自由にかけられるスペースをつかった。

とうや 「お・と・う・さ・ん・い・つ・も・あ・り・が・と・う。  
ありがとうのとう、とうやのとうだ」

教師 「本当だ。一緒だね」

とうや 「これ見て書くと（自分の名前）間違えないね」

教師 「そっか。そうだね。見て書いたらきっと間違えないよ」と「とうや」の言葉を繰り返して言うと、書こうとし始めた。

「とうや」は手紙に自分の名前を書くと同じ名前のもう一人の「とうや」に対して、「ありがとうの『とう』が、とうやの『とう』と一緒に、見て書くといいよって教えてあげようよ」と教師に言った。

もう一人の「とうや」を呼んでくると、手紙を見せながら、勢いよく説明をした。

そして、もう一人の「とうや」が名前を書くまでずっとそばで見守っていた。

・「手紙も」の「も」に、母の日に手紙を書いたことを思い出したことがうかがえる。「感謝の気持ちを伝えたい」という湧き出した思いから、手紙を書こうとしている。

道言数健社

自分で名前を書いてみたい幼児には、教師が別の紙に文字の見本を用意したり、分からない文字だけ代筆したりして、個々の幼児の発達の段階、興味や関心に応じて、この手紙を活用できるようにした。

・拾い読みをしたら、偶然、音が自分の名前の音と同じであることを発見し、うれしくてたまらないようである。

・「本当だ。一緒だね」という教師の言葉から、自分の発見に確信をもち、音が同じならば文字も同じと感じたのだろう。

・見て書くことで、間違いなく文字が書けるという見通しをもったのだろう。

感思自数

・同じ名前の幼児へも関連することと感じ、この発見を知らせたいという気持ちを強くしている。

協道

・勢いよく説明する姿に、早くこの発見を共有したいという気持ちや自信が感じられる。また、最後まで見届けようとする気持ちが感じられる。

協数

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

健 健康な心と体 自 自立心 協 協同性

道 道徳性・規範意識の芽生え 社 社会生活との関わり 思 思考力の芽生え 生 自然との関わり・生命尊重

数 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言 言葉による伝え合い 感 豊かな感性と表現

## 遊びを通した学びが深まるようにする指導のポイント

### ポイント1 伝えたい気持ちが湧き出すような状況づくりをする

「～したい」という気持ちが行動の原動力になる。日々の園生活の中で幼児が感じたことや表したことの意味や価値を理解して共感し、「分かってもらううれしさ」「伝わるうれしさ」を味わう経験を重ね、伝えたい気持ちが湧き出てくるような状況や機会、雰囲気づくりをする。

### ポイント2 幼児の気付きを見逃さずに、発達の姿を生かす教材を工夫する

幼児が文字と出会う過程、その中での偶然の発見や気付きなどを見逃さず、次への体験に生かせるような教材等を工夫する。

### ポイント3 必要感から文字を書きたくなるタイミングを大事にする

「手紙で伝えたい」という必要感から、プレゼントの手紙を書きたいと思いついたり、「メッセージの文字を見たら間違えずに書ける」という自分の気付きを試してみたくなったりするなど、幼児が文字を書きたくなるタイミングを見計らって文字と出会う環境をつくるようにする。

幼児は文字の機能や役割を体験から感じ、読んだり書いたりすることに憧れ、遊びや生活に取り入れていきます。

鏡文字や文字らしき表記などであっても、幼児期には、文字と出会った感動、「読んでみたい」「書きたい」気持ちを、まず、大切に受け止めていきます。



## 主体的・対話的で深い学び

- 感謝の気持ちを伝えたいという必要感から、これまでの体験の中で出会ってきた文字を「読みたい」「書きたい」と感じ、行動に表そうとしている。
- 声に出して読み上げたことで、偶然、音と文字との関連性を発見し、同じ音ならば文字も同じことに気付き、文字が分かる喜びを感じている。母の日に苦労して書いた体験から、見て書くとよいことにも気付いていく。
- 同じ音の名前の幼児の存在にも気付き、自分の発見が同じように生かせると考え、すぐに知らせたり、友達の姿を見届けたりする。



【幼児期の終わりまでに育ててほしい姿】

## 小学校の学習にどのようにつながるのか ～国語科・生活科への接続例～

### 学習指導要領【国語科】の内容への接続例

< 単元名 わたしの なまえ (1年) >

(単元のめあて)

挿絵を基に、話し方や聞き方について知り、自分の名前や自分のことをカードに書き、友達に知らせるようにする。

(目指す子どもの姿)

- ・音節と文字の関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付き、姿勢や口形、発音や発声に注意して話している。【知識及び技能】※

【市教育課程 国語科(1年)P 8より】

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

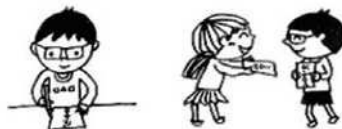
### 市教育課程【生活科】「スタートカリキュラム」を基にした国語科への接続例

(実践例)

「ともだちのことしりたいな」

- ・自分の名前と好きなものをかいたカードにサインをもらいながら、仲間づくりを行うことができるようにする。

新しい友達と仲良くなりたいな。



【市教育課程 生活科(1年)P 5より】

※ 【知識及び技能】は、国語科の評価の観点です。国語の評価の観点には、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」(「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」)、「主体的に学習に取り組む態度」があります。



1学期から、忍者という共通のイメージをもって、友達と一緒に夢中になって遊んだA児たち。遊ぶ中で、友達とイメージや考えを出し合ったり、受け入れ合ったりして遊ぶ楽しさを味わった。遊びに必要なものも、友達と相談して、身近な材料や遊具を使って試行錯誤しながらつくり、イメージを実現していく面白さも味わった。このような経験の積み重ねから、3学期の生活発表会では、幼児から「忍者の劇をしたい」と声があがり、「師匠からもらった地図を手掛かりに、宝を探しに行く」というあらすじになっていった。

【ねらい】 共通の目的に向かい、友達と相談したり、協力したりしながら自分たちで遊びを進め、達成感を味わう。

【環境の構成】 自分の思いや考えを出し合えるような場や時間、雰囲気をつくり、幼児が工夫しながら実現できるような状況をつくる。

幼児の姿と教師の援助

ポイントとなる幼児の言動

幼児の姿をどう捉えるか（遊びを通した学び）

様々な試練を忍者の術で乗り越えていくことになり、崖の向こう側に渡るためにはどうするかということで相談が始まった。

A児「ターザンの術にしよう」

B児「ターザンの術だから、シューっていかなくちゃ」

C児「天井にひもを付けるのは？」

D児「それにぶら下がるの？」

E児「壊れちゃう！」など、それぞれが考えを出し合った。

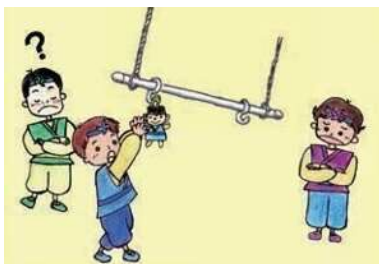
しばらくして、周りを見回していたA児が、天井にぶら下がった



たさおを見付け、「あれに人形を付けるのはどう？」と言った。そのアイデアに友達も賛成し、教師に「あの棒下げて！」と言いに来た。

教師がさおを下げると、幼児は思い切り

押ししたり、斜めに傾けたりしたが、なかなかうまくいかなかった。教師は、仲間の一員として使えそうな物を一緒に探したり、S字フックやリング



等を見せたりした。幼児も「これでやってみよう」と思い付いたことを次々と試していった。

そのうちに、B児が「あれはどう？」と、カーテンレールを見付けた。幼児たちはカーテンレールを付けたさおに人形を付け、勢いよく動かしたり角度を変えたりしながら試した。

そして、「行け！」という掛け声とともに、人形がスムーズにレールの端まで到着すると、全員で「やったあ！」と大喜びした。

幼児一人一人が、思いや考えを自分なりに伝え、考えを出し合えるよう、教師も仲間の一員となって参加した。

- ・したいこと、目的をはっきりともっている。
- ・ターザンの動きをイメージし、擬音にして表現しようとする。
- ・友達の言葉や擬音から、友達のイメージを想像しようとする。
- ・友達同士で、自分なりに考えたことを言葉にして伝えようとする。

感 自 言 協

- ・実現しようと、周りの環境から必要なものを探そうとする。

思 自

- ・イメージ通りにいかないため、身近な環境から、よりぴったり合うものや動かし方を見付け出そうとする。

- ・一緒に考えてくれる教師の言葉や動きに関心を持ち、真剣に見たり聞いたりして試そうとしている。

思 言

- ・カーテンレールの仕組みを思い出し、動きを予想してみようとする。

- ・傾斜の角度や動かす速さを変えて、人形の動きを工夫し、いろいろと挑戦してみようとする。

社 思 数

- ・人形の動きに自分を同化させて、自分が行ったかのように喜ぶ。

- ・粘り強く考えたことが、イメージ通りになり、満足感・達成感を味わっている。

協 自

## 遊びを通した学びが深まるようにする指導のポイント

### ポイント1 自分たちで劇をつくっていく楽しさを味わえるようにする



「忍者の劇がしたい」という思いが出発点である。劇のストーリーづくりや、表現方法も自分たちで考えを出し合って決めていけるようにする。教師が決めたことを教えられたように取り組むのではなく、自分たちでしたいことに向かっていろいろと考えを出し合い、実現する楽しさを味わうことを大切にする。

### ポイント2 友達との話し合いの中で、気づき、考えられるようにする



これまでの体験の中で、受け入れ合える友達同士の関係が必要である。ターザンの術を表現するための話し合いでは、教師も仲間の一員として参加する中で、一人一人が思いや考えを自分なりの言葉にして伝えようとしている。友達と考えを出し合う中で、幼児が友達の考えに触れ、自分の考えと比べたり関連付けたりして、新たな考えを生み出そうとする姿を大切にする。

### ポイント3 目的に向かって友達と試行錯誤し、共につくり上げられるようにする



ターザンの術を表現しようとするが、なかなかうまくいかない。葛藤やトラブルの過程も重要な体験と捉え、幼児の考える時間と場を保障し、見守るようにする。その中で、幼児が自ら周りの環境に目を向け情報を活用し、考え、試行錯誤し、行動することを大切にする。

## 主体的・対話的で深い学び

- イメージしたことを適切な言葉や擬音等で表現し伝えようとしたり、それらを聞きイメージを推測したりする。(互いの思いや考えを受け止め合う)
- イメージの実現に向け、必要なものを身近な環境から探そうとしたり、よりぴったり合うものを見付けようとしたりする。
- 物の仕組みを捉え、角度と速さの関連性などに気付いたり、特性を遊びに取り入れたりする。
- 自分たちで主体的に取り組んだことに、最後まで粘り強く考えたり、やり遂げたりする。

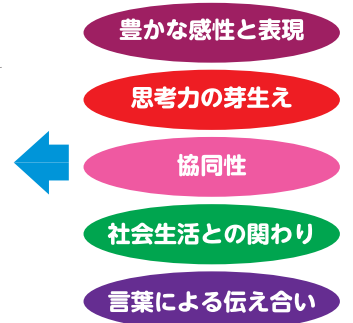


【幼児期の終わりまでに育ててほしい姿】

## 小学校の学習にどのようにつながるのか ～生活科への接続例～

### 学習指導要領【生活科】の内容への接続例

- (6) 「自然や物を使った遊び」 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
- (8) 「生活や出来事の伝え合い」 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。 【小学校学習指導要領 解説 生活編 P41・46より】



### 市教育課程【生活科】「なかまなビジョン」を基にした他の人へ伝え合う活動への接続例

【児童同士がこつを教え合うことで、気づきの質が高まる対話例】

① もっと大きなしゃぼん玉が作りたいな。

② 向こうで、大きなしゃぼん玉を作っている子たちがいたよ。

③ どうやったら大きく作れるの。

④ こうやって、ゆっくり動かすと、大きなしゃぼん玉になるよ。

【どのような工夫をしたか教師が問い掛けることで、気づきの質が高まる対話例】

① ぼくのロケットが、すごく飛ぶようになったよ。

② 私も、さっきよりも飛んだよ。

③ どうしたらよく飛んだのかな。

④ 最初よりも、羽根を大きくしたんだ。

⑤ さっきよりも風が強いときに飛ばしたよ。

【市教育課程 生活科(1年)単元「なつと なかよし」P15より】 【市教育課程 生活科(1年)単元「ふゆと なかよし」P24より】

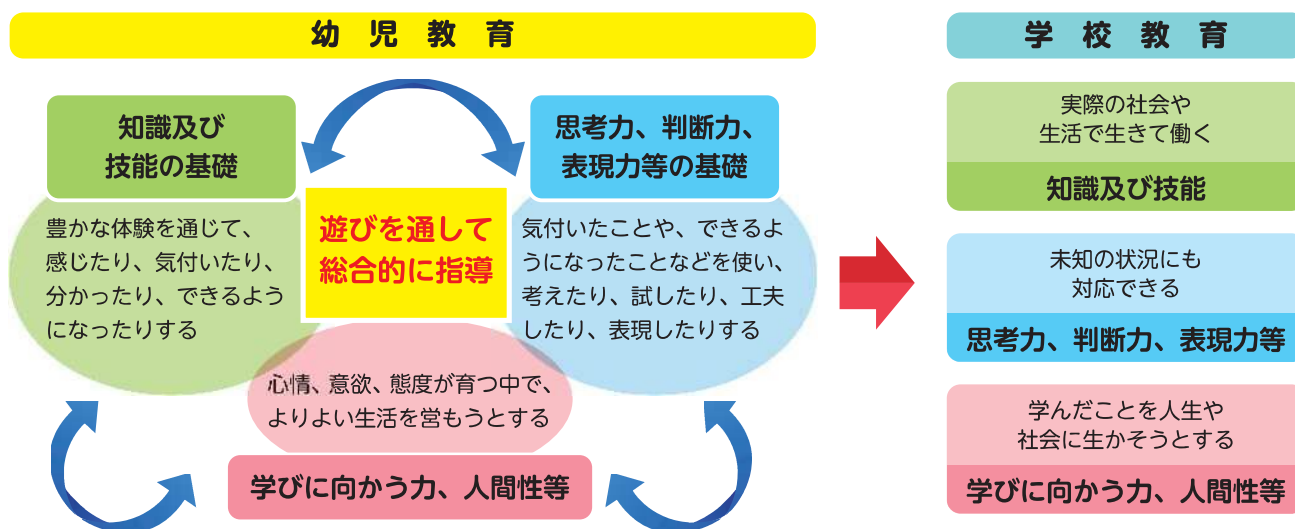
# 幼保小の円滑な接続を図るためには

幼児教育は、小学校教育の先取りではなく、幼児が主体的に遊び楽しさや面白さを感じる中で、自ら気付いたり考えたりすることなどを大切にしています。この学びが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」へとつながり、この過程で育まれる資質・能力は、小学校での学習意欲や生活態度の基礎となります。

小学校学習指導要領総則には、「入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」と示されています。

幼保小の教職員が、下図のような資質・能力のつながりを理解し、見通しをもって双方の教育を見直し、教育課程（全体的な計画）やそれに基づく指導計画の改善を図っていくことが望まれます。

## 【幼児教育と学校教育で目指す資質・能力のつながりのイメージ】



## 【幼児教育における遊びを通して育まれる学びと、小学校における学習とのつながりのイメージ】

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは…  
到達目標ではなく、幼児教育で育みたい資質・能力が育まれる過程で見られる生活の姿です。

スタートカリキュラムとは…  
小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」  
文部科学省  
HP内



幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き  
(初版)



幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料  
(初版)



発達や学びをつなぐスタートカリキュラム～スタートカリキュラム導入・実践の手引き～



## 1 (2) イ 特別な配慮を必要とする子どもへの支援

### < 専門家チーム >

各特別支援学校を拠点とし教育機関・医療機関・療育機関の専門家によって構成する専門家チームを派遣し、発達障害の可能性のある幼児児童生徒への理解や具体的な対応について支援しています。

#### 【専門家チーム派遣園数】

年 度	園 数
平成28～令和元年度	23園（全23園中）
令和2年度	20園（全23園中）
令和3年度	21園（全23園中）
令和4年度	20園（全21園中）
令和5年度	20園（全20園中）
令和6年度	20園（全20園中）

### < 学校生活介助アシスタント >

障害のある幼児・児童・生徒に対して、学校生活介助アシスタントを派遣して、保護者の付添・介助の負担を軽減しています。

#### 【幼稚園における学校生活介助アシスタントの派遣状況】

年 度	対象園児数	派遣時間数
平成28年度	3人	880時間
平成29年度	3人	1,319時間
平成30年度	5人	1,155時間
令和元年度	7人	1,855時間
令和2年度	5人	2,309時間
令和3年度	4人	2,865時間
令和4年度	6人	2,162時間
令和5年度	6人	3,225時間
令和6年度	6人	3,122時間

### < 発達障害対応支援員 >

発達障害のある幼児児童生徒に対し、学校（園）生活全般での介助等を行っています。平成29年度以降は全園に1名ずつ配置しています。

#### 【発達障害対応支援員の配置園数】

年 度	園 数
平成28年度	6園（全23園中）
平成29年度以降	23園（全23園中）
令和4年度	21園（全21園中）
令和5年度以降	20園（全20園中）



# 名古屋市幼児教育支援室 概要

## 本市の幼児教育の質向上を図る拠点

参考資料 6

- ◇市全体の幼児教育の推進、質の向上を目指した事業の実施
- ◇幼児期の子をもつ親の支援事業の実施
- ◇公立・私立幼稚園、公立・民間保育所、認定こども園との連携推進

### 幼児の育ち応援ルーム

- ・ことばの指導推進員が、対象幼児とその保護者に対し、通級で言語の発達について個別支援を実施。
- ・H30～ 第三幼稚園内に設置
- ・R1～ 神の倉幼稚園内に設置
- ・R5～ 猪高幼稚園内に設置

子育ての支援

悩みや不安を抱える保護者の増加

早期支援で子育て力 UP!

### 子育て講習会（令和4年度より実施）

- 親子わくわく広場 未就園児親子対象
- 子育てセミナー 未就園児保護者対象

### 専門家による子育て相談

- 子育てラウンドテーブル
- 幼児教育アドバイザー等による座談会

幼児教育における今日的な課題の追究

課題解決に向かう力 UP!

調査研究

研修

幼児教育の重要性が教育・保育3法令において明確化

保育者の資質・実践力 UP!

幼児教育の拠点

## 幼児教育支援室

### H30～R1年度「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の研究

- ・文科省明示「10の姿」に関わる事例について、幼児教育アドバイザー指導助言のもと分析・整理
- ・研修等で活用

### H30～R2年度「環境の構成 アイデア・ポイント集」作成

- ・指導の充実に役立つ指導用資料作成
- ・幼児教育アドバイザー指導助言のもと資料検討
- ・資料をCD化、市内の公私幼保等施設に配付

### R3～「幼保小接続」研究

- ・「主体的、対話的で深い学び」の接続について研究
- ・幼児教育アドバイザー指導助言のもと、実践事例を分析・整理
- ・リーフレットを作成、市内の公私幼保等施設、小学校・特別支援学校に配付
- ・1年生教育課程に「幼保小接続章」を作成、名古屋市立学校園に配信
- ・また「幼保小接続資料」として市内すべての幼児教育施設に配信
- ・幼保小接続を考えるセミナー等を開催

### 公私幼保等に関われた実践研修

- ・保育実技研修会
- ・派遣型研修会  
幼児教育アドバイザーを幼稚園に派遣
- ・保育所保育士と幼稚園教諭の交流研修
- ・公開保育
- ・実践研究報告会

### 基本的な研修

- ・幼稚園新規採用教員研修
- ・幼稚園教職経験者研修  
[幼稚園5年研]
- ・幼稚園中堅教諭等資質向上研修  
[幼稚園10年研]
- ・幼稚園主任研修会
- ・幼児教育講座

### 今日的な教育課題に関する研修

- ・幼小接続推進講座
- ・幼児教育研修会



名古屋市  
環境の構成 アイデア・ポイント集 (抄)  
～ 3歳児編 ～



令和3年3月

名古屋市教育委員会指導室 幼児教育支援室

## CD 内データ目次



### 作成の趣旨等

目次

まえがき

I 名古屋市指導資料 CD「環境の構成 アイデア・ポイント集」作成の趣旨

1 作成の趣旨

2 作成の基本方針

II 指導計画の構成、資料の使い方について

1 指導計画の構成

2 資料の使い方

III 資料「3歳児編」作成に関わった委員等

1 作成委員

2 学識経験者（作成協力及び指導助言）

3 検討委員

4 絵本・紙芝居 監修協力

5 CD ジャケット等イラスト作成協力

あとがき

※ 園内見取り図

※ 月ごとの PDF データ内容一覧表



### 月案・週案等 ～3歳児編～



3歳児週案  
WORD

①3歳児週案 4月

②3歳児週案 5月

③3歳児週案 6月

④3歳児週案 7月

⑤3歳児週案 9月

⑥3歳児週案 10月

⑦3歳児週案 11月

⑧3歳児週案 12月

⑨3歳児週案 1月

⑩3歳児週案 2月

⑪3歳児週案 3月



月ごとの  
PDF

①3歳児 4月 PDF

②3歳児 5月 PDF

③3歳児 6月 PDF

④3歳児 7月 PDF

⑤3歳児 8月 PDF

⑥3歳児 9月 PDF

⑦3歳児 10月 PDF

⑧3歳児 11月 PDF

⑨3歳児 12月 PDF

⑩3歳児 1月 PDF

⑪3歳児 2月 PDF

⑫3歳児 3月 PDF



### 3歳児編巻末資料

絵本・歌等年間リスト（4月～3月）

誕生会の出し物・壁面構成の参考例

## II 指導計画の構成、資料の使い方について

### 1 指導計画の構成


本資料の指導計画は、月ごとに構成され、基本的に1ヶ月は「今月の保育展開 ガイド&ナビ」、「月案」、「週案」、「👉ここがポイント!」、「日案・部分指導案」、「💡アイデア」の6項目から成り立っている。「今月の保育展開 ガイド&ナビ」でその月の子どもの育ちを捉え、「月案」でその月全体を見通し、週案、日案、部分指導案へとより具体的に焦点化していき、日々の実践の一助となるよう構成した。特に、週案の環境図については、写真を取り入れ、どのように環境構成をしているのかをより分かりやすく示すことを意識した。

「👉ここがポイント!」や「💡アイデア」では、週案に記載した以外にも、保育者として意識するとよいことや、様々な教材があることを示した。

そして、巻末には、その時期に子どもに触れさせたい絵本や歌、その時期に抑えたい安全や保健に関わることなどについて、月や1年を見通して取り入れていくことができるように、年間の参考資料を掲載した。また、3歳児編については、誕生会の出し物や壁面構成についても、参考資料を掲載した。

なお、令和2年度については、幼稚園の場合、年間で43週となる週案のすべてを掲載して、毎週の週案作成の参考書にすべきところであるが、その月の最も大切であると思われる週のみとなったことをご詫言すと共にご理解いただきたい。

詳しくは、次の各項目に朱書きで表記した。

<b>今月の保育展開 ガイド&amp;ナビ</b>	
<b>月</b>	子どもの具体的な姿から、育ってきているところを記載。今月育っていくことを期待し援助することを書き表した。
	今月を象徴するような子どものイラスト
<b>エピソード『 』</b>	
上記の“育つ姿”に書かれていることを、具体的な場面を通して理解していただけるように、園の生活の中でよく見られるエピソードを取り上げた。	
 知恵袋	上記のエピソードに対して、どのように援助していくとよいのか、保育者の基本的な考えを記載した。 保育者としての援助ポイントは太字で示した。
保育者の先輩として、筆者がこれまで培ってきた『知恵』と『技術』を紹介。	<b>ミニ知識</b> 保育者の自然等に関わる知識として、ぜひ、知っておいてほしいことを記載した。

## めざそう！ ワンランク上の保育者

「めざそう！ ワンランク上の保育者」（各月 2～4 頁）に記載する概要を紹介。

保育者としてワンランクアップするために、資質向上に向けて、  
保育に関連する知識を多面的に捉えて、具体的に記載した。

### 【月案】

※月日については、令和2年度で記載。

★は指導計画の中で採り上げた週

○青字は週案例にある活動 ○黒字はそれ以外の活動

☆マークは「内容」とは直結しないがその週に入れたい活動

○月	週のねらい	内容	活動例
第 週 日 ～ 日		1-①	○
		1-②	○
第 週 日 ～ 日	※ <b>週のねらい</b> ・ <b>内容</b>	<p>「全体的な計画」・「指導計画（参考）」の3歳児のところに挙げられている、期の“ねらい”と“内容”から、それぞれの時期の子どもの姿を踏まえ、おおよそ何月の何週目ぐらいに育ってほしいか（ねらい）・活動を通してどのような経験をする必要があるのか（内容）を、発達の連続性、季節の変化などを考慮して月案の中に具体的に位置づけた。内容は、経験できることを重要と考え、1週に三つまでとした。</p>	
第 週 日 ～ 日	※ <b>活動例</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容として挙げたことが経験できることを期待し、3歳児の興味や関心、心身の発達段階などを見通して、そのときどきにふさわしいと思われる具体的な活動例を記載した。</li> <li>・自然に関わることや、季節的なこと、日本の伝統行事など、タイミングを逃さず体験してほしい活動も記載した。</li> <li>・園外保育、避難訓練、誕生会、身体測定等などの行事も盛り込んだ。</li> <li>・あくまでも活動例である。大切なことは、子どもたちが主体的に活動を展開していける活動にすることであり、列挙した以外にも予想される活動、例えば前週の活動の続きを展開することが予想される場合は、実際の指導計画に取り上げることが望ましい。</li> </ul>	
第 週 日 ～ 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・週の中には、内容には直結しないがその週に入れたい活動として記載している活動例もある。それは、☆マークを付けて示した。</li> </ul> <p>各園には、伝統、恒例となっている行事、地域とのつながりの中で行われている活動がいろいろとあることと思われる。子どもたちの成長・発達のために必要と思われる活動はぜひ取り上げてほしい。</p>	

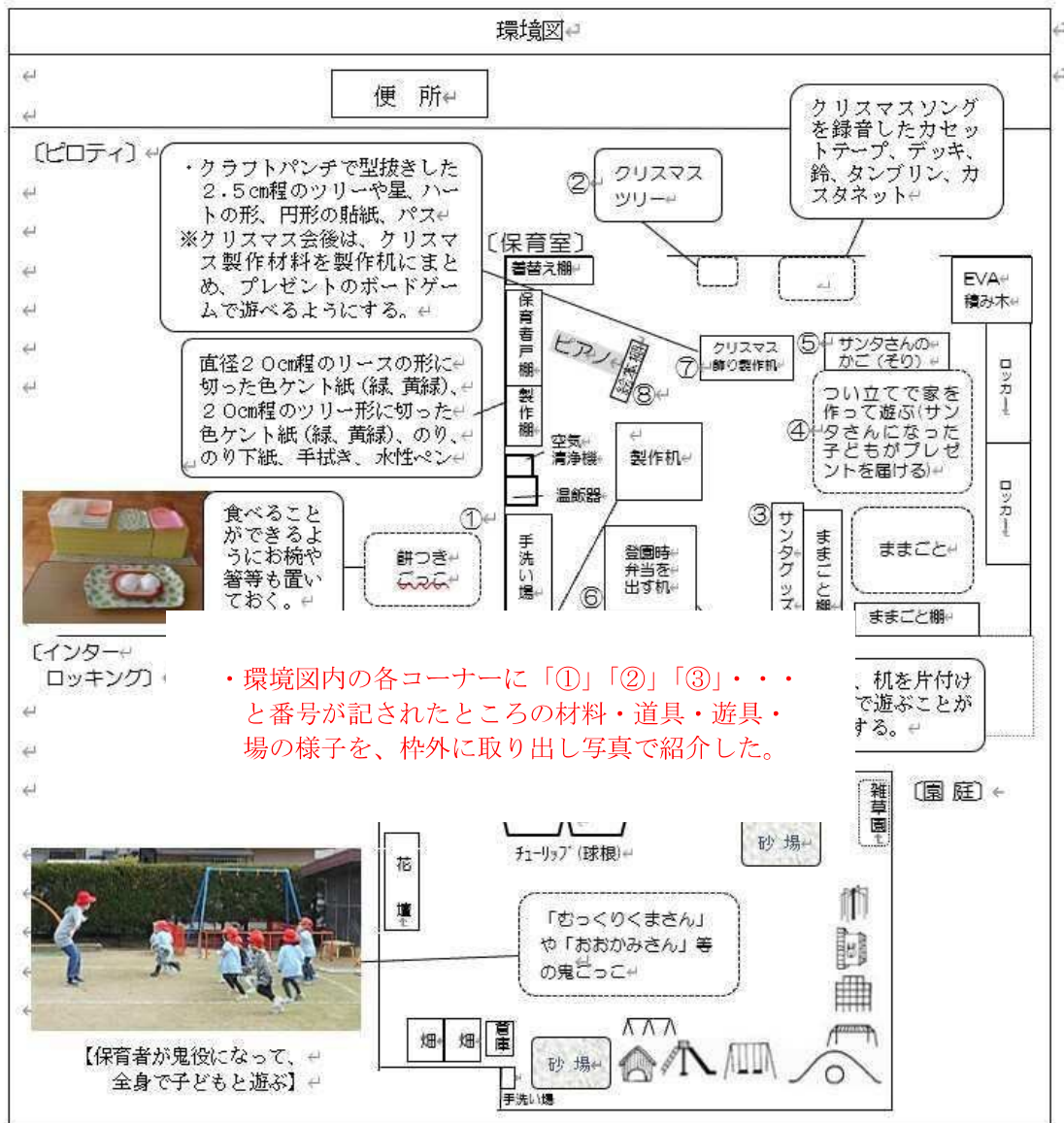
「教育・保育に関する全体的な計画  
・指導計画（参考）」の分類に基づく期

・「今月の保育展開 ガイド&ナビ」から、  
その月のポイントになる週をピックアップ  
・4月からの連続週数

※月日については、令和2年度で記載。

3歳児〇期 第16週の週案（〇月 〇日～〇月 〇日）

期のねらい	※「教育・保育に関する全体的な計画・指導計画（参考）」における期のねらい				
週のねらい	※この週、子どもたちに育ってほしい姿				
内 容	①  ※ 「ねらい」を達成するた めに、保育者が構成する環境に 子どもが関わって展開する活 動を通して、どのような経験 をすることが必要であるか具 体的に示したもの。  ②  ③	活 動 例	○	※ 内容として挙げたことが経験できると 期待できる活動	
			○	※ 幼児の興味・関心、発達段階、季節等を とらえ、この時期に取り上げたい活動	
行 事 等	○日（月）	○日（火）	○日（水）	○日（木）	○日（金）
	※この週に予定されている行事等を記載			日案参照 <span>この日の日案を 後頁に掲載</span>	
○活 動 例	① ※上記の内容①				
	○ ☆ ◇				
☆環 境 の 構 成	② ※上記の内容②				
	○ ☆ ◇				
◇保 育 者 の 援 助	③ ※上記の内容③				
	○ ☆ ◇				



①餅つきごっこ



【うさぎきね】

白やきね、餅をすぐに遊べるように用意しておく。  
持ちやすく、つきやすい「うさぎきね」も置いておく。

②クリスマスツリー



段ボールに色ケント紙を貼って、レンガのようにして囲う。

- ・環境図内に記された番号のところの材料・道具・遊具・場の様子を写真で紹介
- ・□ に配慮点等を記載。

<p>【♪歌 #器楽】</p> <p>♪ ♪ #</p>	<p>【絵本等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチモチの木</li> <li>・ももたろう（素話）</li> </ul>
--------------------------------------	--

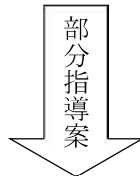
※この週、この時期に取り入れるとよいと考えたもの

<p>【✋手遊び ✿リズム遊び *その他】</p> <p>✋ ✿ *</p>	<p>【安全・保健・生活習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
--	---

<👉ここがポイント!〇〇~>  
 ※ 週案の中では書き切れていないが、保育者にぜひ意識してほしいこと、知っておいてほしいことをここに記載した。

第〇週 〇月〇日(〇) 日案

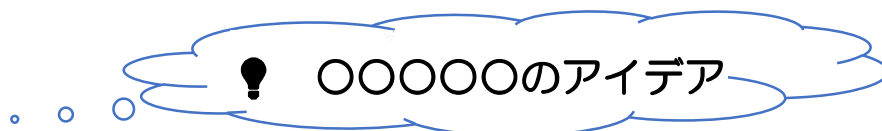
時刻	○・予想される子どもの活動	☆環境の構成 ◇保育者の援助
8:45	○ 登園する	◇ 登園してきた一人一人の表情を丁寧に 見て、気持ちを受け止める。 ☆ 子どもたちが、自分たちで始められる ように、リレーのトラックを引いておく。
	○ 所持品を始末する。	
	○ 好きな遊びをする。	
9:00	※ 週のなかで、ポイントと思われる一日を取り上げ、日案を立案	



※ 取り上げる活動の中で、大切にすることを記載。

第〇週 〇月〇日(〇) 部分指導案 〇〇〇〇〇

	・ 子どもの活動	☆環境の構成 ◇保育者の援助
13:30	降園の身支度を済ませて集まる。	☆ 手作りのマイクを用意し、保育者はアナウンサーのような口調で「今日はどんな楽しかったことやうれしかったことがあったか、〇組の子どもたちにインタビューしてみたいと思います」と、楽しい雰囲気をつくる。
	※ 指導者として『今日、自分は子どもに何を体験させたいと思っているのか』、『大切なことは何なのか』をしっかりと理解し、一日の中で、特に丁寧な指導を要する部分について部分指導案を立案	



※ 製作物や遊び方、材料などを紹介

## 参考資料 7

### 2(2)イ 研修事業について

研修の実施にあたっては、「名古屋市教育委員会幼児教育支援室研修実施協議会」を開催し、公私幼保等の団体の代表者と協議を行いながら進めています。子ども青少年局と協力し、合同で実施する研修もあります。

#### 【幼児教育支援室主催の研修一覧】

番号	研修名・日数・ねらい等	主な内容	受講者数		
			令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	<b>幼稚園新規採用教員研修</b> (園内10日、園外10日) <b>【ねらい】</b> 教員としての心構えや基本的な知識・技能の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の心構え</li> <li>・食に関する指導</li> <li>・運動時における安全配慮</li> <li>・小学校参観</li> <li>・幼児との関わり方(指導保育参観)</li> </ul>	公 3人	公 1人	公 4人
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育の基本</li> <li>・人権と教育</li> <li>・特別支援教育の基本</li> </ul>	公 3人 私 119人 保 18人	公 1人 私 104人 保 31人	公 4人 私 92人 保 30人
2	<b>幼稚園教職経験者研修[幼稚園5年研]</b> (7日) <b>【ねらい】</b> 幼児理解を深め、保育の在り方を追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期にふさわしい生活の展開(代表保育参観)</li> <li>・課題研究</li> <li>・人権と教育</li> <li>・幼児理解</li> </ul>	公 3人	公 6人	公 8人
3	<b>幼稚園中堅教諭等資質向上研修[幼稚園10年研]</b> (園内外7日ずつ) <b>【ねらい】</b> 受講者一人一人の課題解決と、幼稚園教員としての幅広い見識を高めるとともに、資質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教員として</li> <li>・【講演】人権と教育</li> <li>・園の危機管理と対応</li> <li>・教職員の服務</li> <li>・今日的な教育課題</li> <li>・課題研究</li> <li>・幼児理解 等</li> </ul> (保は一部の内容のみ参加)	公 3人  私 2人	公 1人  私 7人	公 1人  私 9人 (保 20人)
4	<b>★幼児教育講座(旧幼稚園教育課程研修会)</b> (2日) <b>【ねらい】</b> 教育課程の編成及び実施に伴う諸問題について協議し、教職員の指導力を高める。	教育課程の編成及び実施に伴う諸問題について協議	公 30人  私 132人 保 0人	公 21人  私 147人 保 15人	公 21人  私 147人 保 20人
5	<b>幼稚園主任研修会</b> (1日) <b>【ねらい】</b> 園運営に関わる幼稚園教諭(主任)の役割を学び、実践力を高める。	園運営に関わる課題とその対応	公 18人	公 20人	公 20人
6	<b>★幼児教育研修会</b> (2日) <b>【ねらい】</b> 幼児教育における今日的課題解決に向けて、実践力や識見を高める。	【講演】 今日的な教育課題をテーマとした講演(オンデマンド)	公 135人  私 30人 保 548人	公 134人  私 23人 保 348人	公 151人  私 14人 保 1,596人



番号	研修名・日数・ねらい等	主な内容	受講者数		
			令和4年度	令和5年度	令和6年度
7	<b>★保育実技研修会</b> (1日×4回) <b>【ねらい】</b> 保育に生かせる実技についての知識・技能を習得し、実践力を高める。	保育に生かせる実技についての講義・演習	公 81人 私 6人 保 557人	公 117人 私 20人 保 1,122人	公 130人 私 7人 保 1,500人
8	<b>派遣型研修会</b> (1日×20回) <b>【ねらい】</b> 幼児教育に求められている実践力や見識を高めることで、地域の幼児教育の質向上を図る。	幼児教育アドバイザーによる講義 「幼児教育の基本」「幼保小接続」「特別支援教育」	公127人 私 6人 保 47人	公114人 私 13人 保 83人	公137人 私 10人 保 151人 他 30人
9	<b>★保育所保育士と幼稚園教諭の交流研修</b> (2日×3回) <b>【ねらい】</b> 保育所・幼稚園の互いの教育・保育内容について理解を深め、専門職としての資質向上を図る。	指導体験交流	公幼2人 公保2人	公幼2人 公保2人	公幼2人 公保2人
10	<b>★公開保育</b> (1日×2回) <b>【ねらい】</b> 保育参観及び協議を通して、幼児理解を深めるとともに実践力を高める。	保育参観・協議	公 16人 私 3人 保 25人	公 19人 私 0人 保 24人	公 17人 私 2人 保 35人
11	<b>★実践研究報告会</b> (1日×2回) <b>【ねらい】</b> 各園が努力点研究の取組について、発表、協議を行い、各園の実践力、研究推進力を高める。	努力点研究の発表・協議	公22人 私 0人 保 6人	公20人 私 0人 保 6人	公21人 私 1人 保 17人
12	<b>幼小接続推進講座</b> (1年目：5日) (2年目：5日) <2年継続研修> <b>【ねらい】</b> 小学校教育について学び、幼稚園の学びと小学校の学びの円滑な接続について意識を高め、スキルアップを図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校教育の理解</li> <li>・ 授業公開への参加</li> <li>・ 学習会への参加</li> <li>・ 接続期の教育の理解</li> </ul>	/	公 4人 [1年目4人]	公 8人 [1年目4人] [2年目4人]

※ 公：市立幼稚園・国立大学法人附属幼稚園 私：私立幼稚園 保：公・民保育所及びこども園

※ ★印は子ども青少年局と合同研修

## 参考資料 8

### 2 (2) ウ 子育て支援事業について

#### <子育てラウンドテーブル>

子育ての悩みを他の保護者と共有したり、幼児教育アドバイザーからのアドバイスを聞いたりできる「子育て相談座談会」（令和6年度：5回）や、幼児の育ち応援ルームのことばの指導推進員を講師として子どものことばについての心配事や悩み事を語り合える座談会「ことばの相談室」（令和6年度：9回）を開催しています。

#### <親子わくわく広場>

令和4年度から、保護者が子どもとの遊び方や好ましい関わり方を知ることができるよう、未就園児を対象とした親子で遊ぶ体験イベントを実施しています。（令和6年度：6回実施）

#### <子育てセミナー>

令和4年度から、未就園児の保護者が子育ての楽しさを感じ、幼児教育の重要性を理解できるよう、幼児教育アドバイザーの講演やアドバイスを聞くセミナーを実施しています。（令和6年度：3回実施）

### <幼児の育ち応援ルーム>

医学博士・言語聴覚士の資格を持つ「スーパーバイザー」の指導の下、ことばの指導推進員（保育経験者）が言語発達の遅れや吃音、構音の障害を始めとしたことばの発達等に課題のある幼児やその保護者に対して、通級による個別支援を行っています。

当初は市立幼稚園の園児とその保護者を対象としていましたが、令和2年度より私立幼稚園や公民保育所・認定こども園からも通級を受け入れています。

通級する幼児に対しては、話すことや聞くことが好きになるよう遊びを通して指導をしています。また、保護者に対しても、面談やアドバイスをを行い、不安を和らげたり、家庭における配慮点を具体的に説明したりしています。

#### 【開設状況】

平成30年7月                    第三幼稚園内「たんぽぽ」  
令和元年7月                    神の倉幼稚園内「ことり」  
令和5年7月                    猪高幼稚園内「どんぐり」

#### 【通級者数】

年度	たんぽぽ	ことり	どんぐり	合計
平成30年度	22			22
令和元年度	33	19		52
令和2年度	60	36		96
令和3年度	62	38		100
令和4年度	62	41		103
令和5年度	62	41	38	141
令和6年度	54	37	46	137

## 保護者様

# 「幼児の育ち応援ルーム たんぽぽ・ことり・どんぐり」について

名古屋市教育委員会では、幼児教育支援室の子育て支援事業の一環として、「幼児の育ち応援ルーム」を開設しています。

幼児の育ち応援ルームの「たんぽぽ」「ことり」「どんぐり」は、お子さんのことばと成長について、家族の方と一緒に考える場です。 \*対象は4・5歳児です



## ことばの発達について、こんなご心配はありませんか？

ことばの数が少ない

発音が不明瞭で聞き取りにくい

カ行、サ行、ラ行、ツ音などが、他の音に置き換わる  
「かめ」→「ため」、「さかな」→「ちゃかな」



思っていることが表現できない

単語をうまくつなげて話せない

ことばが出にくかったり、同じ音を繰り返したり、音を引き伸ばしたりする  
「あっ・あっ・あのね～」  
「ぼ・ぼ・ぼくね～」  
「よ —— ちえんでね」

**場 所：** たんぽぽ：名古屋市立第三幼稚園内（名古屋市西区那古野二丁目15番1号）  
ことり：名古屋市立神の倉幼稚園内（名古屋市緑区神の倉四丁目210番）  
どんぐり：名古屋市立猪高幼稚園内（名古屋市名東区丁田町33）



\*駐車場はありません。公共交通機関もしくは近くのコインパーキングをご利用ください。

**対象者：** 市内在住もしくは通園の4・5歳児のうち、言語発達の面で課題があり、他の専門機関で指導を受けていない幼児とその保護者が対象になります。

**費用：** 無料

**内容：** お子さんの状態に合わせて、週1回または、月1・2回程度遊びを中心に個別に指導したり、保護者の方にアドバイスを行ったりします。

- ・ 親子で通級します。
- ・ 1回40分程度行います。

**受付時間：** 9：10～14：10（完全予約制）\*平日のみ

**指導者：** ことばの指導推進員（保育経験者）

**申込方法：** 在籍園にお問い合わせください。

**問合せ先：** 幼児の育ち応援ルームについての詳細は、お子さんが通う園にお尋ねください。

保護者を対象として、ことばに関する教育相談も行っています。教育相談は、3歳児の保護者も利用できます。



お子さんのことばの発達で少しでも心配なことがありましたら、通園している園を通してお気軽にご相談ください。

名古屋市教育委員会 幼児教育支援室

### 3 (2) 幼稚園施設の整備

#### 【計画的な老朽化対策】

年度	園名	整備内容
R 1	第三幼稚園	リニューアル改修（南園舎）
R 2	大高幼稚園	リニューアル改修
R 3	鳴子幼稚園	保全改修（保育棟）
R 4	吹上幼稚園	リニューアル改修
R 6	大幸幼稚園	リニューアル改修
R 7（予定）	荒子幼稚園	リニューアル改修

#### 【保育室への空調整備】

全保育室への空調整備を平成29年度に実施しました。

#### 【園庭の芝生化】

全20園のうち、18園を整備しました。

（高田幼稚園と常磐幼稚園は日当不良のため未整備）

# 参考資料10

## ○市立幼稚園の配置について



区 分	園 名
千種区	第二幼稚園
東 区	第一幼稚園、大幸幼稚園
北 区	楠西幼稚園、おりべ幼稚園
西 区	第三幼稚園
昭和区	吹上幼稚園
瑞穂区	高田幼稚園
中川区	常磐幼稚園、荒子幼稚園、春田幼稚園
守山区	二城幼稚園
緑 区	鳴子幼稚園、桶狭間幼稚園、大高幼稚園、神の倉幼稚園
名東区	西山台幼稚園、猪高幼稚園、梅森坂幼稚園
天白区	植田幼稚園

○市立幼稚園の定員・園児数・充足率について

参考資料11

(園児数は、各年度5月1日現在)

園名	区分	R 3 年度			R 4 年度			R 5 年度			R 6 年度			R 7 年度		
		定員 人	園児数 人	充足率 %	定員 人	園児数 人	充足率 %	定員 人	園児数 人	充足率 %	定員 人	園児数 人	充足率 %	定員 人	園児数 人	充足率 %
第 二	千種	160	97	60.6	160	80	50.0	160	76	47.5	160	77	48.1	160	73	45.6
第 一	東	160	110	68.8	160	93	58.1	160	97	60.6	160	95	59.4	160	115	71.9
大 幸	東	145	71	49.0	85	59	69.4	85	59	69.4	85	60	70.6	85	61	71.8
報 徳	北	30	8	26.7	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
楠 西	北	85	35	41.2	85	36	42.4	85	38	44.7	85	31	36.5	85	28	32.9
おりべ	北	85	51	60.0	85	48	56.5	85	46	54.1	85	33	38.8	85	35	41.2
第 三	西	160	87	54.4	160	82	51.3	160	83	51.9	160	91	56.9	160	92	57.5
比良西	西	60	16	26.7	30	7	23.3	/	/	/	/	/	/	/	/	/
吹 上	昭和	85	71	83.5	85	73	85.9	85	80	94.1	85	82	96.5	85	74	87.1
高 田	瑞穂	85	64	75.3	85	47	55.3	85	54	63.5	85	44	51.8	85	47	55.3
常 磐	中川	85	54	63.5	85	46	54.1	85	43	50.6	85	44	51.8	85	39	45.9
荒 子	中川	85	45	52.9	85	35	41.2	85	36	42.4	85	36	42.4	85	41	48.2
春 田	中川	85	58	68.2	85	55	64.7	85	49	57.6	85	44	51.8	85	39	45.9
はとり	中川	30	15	50.0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
二 城	守山	160	53	33.1	85	42	49.4	85	39	45.9	85	32	37.6	85	34	40.0
鳴 子	緑	160	86	53.8	160	76	47.5	160	68	42.5	160	67	41.9	160	72	45.0
桶狭間	緑	160	83	51.9	160	67	41.9	85	51	60.0	85	41	48.2	85	37	43.5
大 高	緑	85	62	72.9	85	61	71.8	85	58	68.2	85	51	60.0	85	53	62.4
神の倉	緑	85	77	90.6	85	72	84.7	85	62	72.9	85	53	62.4	85	38	44.7
西山台	名東	160	104	65.0	160	120	75.0	160	127	79.4	160	106	66.3	160	69	43.1
猪 高	名東	160	114	71.3	160	105	65.6	160	104	65.0	160	89	55.6	160	95	59.4
梅森坂	名東	85	56	65.9	85	53	62.4	85	37	43.5	85	32	37.6	85	28	32.9
植 田	天白	160	129	80.6	160	116	72.5	160	116	72.5	160	102	63.8	160	86	53.8
合 計		2,555	1,546	60.5	2,330	1,373	58.9	2,225	1,323	59.5	2,225	1,210	54.4	2,225	1,156	52.0
対前年比		△ 85	△ 214	△ 6.2	△ 225	△ 173	△ 1.6	△ 105	△ 50	0.5	0	△ 113	△ 5.1	0	△ 54	△ 2.4
学級数		9 3			8 5			8 1			8 2			8 2		
実学級数		8 6			7 8			7 6			7 8			7 6		

# 参考資料12

## ○市立幼稚園の施設概要について

※築年数は令和7年度時点

園名	区分	敷地面積	延床面積	保有普通教室	募集学級数	主な棟	築年数	大規模改造 リニューアル改修 保全改修
第二	千種	1,529	1,044	8	6	園舎S54、RC	46	H26
第一	東	2,653	1,163	6	6	園舎H2、RC	35	
大幸	東	2,216	1,056	8	3	園舎S44、RC 遊戯室棟S53、RC	56	R6
							47	H26
楠西	北	2,117	627	4	3	園舎S48、RC	52	S58
おりべ	北	2,221	792	6	3	園舎S53、RC	47	
第三	西	3,767	2,084	10	6	園舎（中）S40、RC 園舎（南）S42、RC 園舎（北）S60、RC	60	S60
							58	R1
							40	
吹上	昭和	2,376	753	6	3	園舎S43、RC	57	R4
高田	瑞穂	860	565	4	3	園舎S45、RC	55	H3
常磐	中川		270	4	3	園舎S40、RC	60	H1
荒子	中川		598	4	3	園舎S44、RC	56	H5、 R7予定
春田	中川	2,585	572	4	3	西園舎S51、RC 東園舎S51、RC	49	H25
							49	H25
二城	守山	1,998	750	6	3	園舎S47、RC	53	S59
鳴子	緑	2,365	962	6	6	園舎（保育室）S39、RC 園舎（管理諸室）S40、RC 遊戯室H4、RC	61	R3
							60	H4
							33	
桶狭間	緑	1,820	735	6	3	園舎S46、RC	54	H7
大高	緑	2,594	826	6	3	園舎S55、RC	45	R2
神の倉	緑	1,652	572	5	3	園舎S51、RC	49	H9
西山台	名東	1,988	849	6	6	園舎H13、RC	24	
猪高	名東	2,916	1,069	8	6	西園舎S49、RC 東園舎S50、RC	51	H8
							50	H8
梅森坂	名東	1,652	572	4	3	園舎S52、RC	48	H25
植田	天白		818	6	6	園舎H7、RC	30	

※RCは鉄筋コンクリート造